

令和5年度 自己評価

令和6年2月22日



岡山科学技術専門学校

I 学校の目標

岡山科学技術専門学校は、「技術教育を通じての人間教育」の理念の下、高度産業社会の科学的発展に寄与する優秀な技術力を持つ専門技術者を育成することを目標に教育活動を展開する。

II 教育活動の具体的方針

社会は情報化・国際化・少子高齢化が一段と進み、職業教育の重要性が一層高まっている。これに加え、令和2年4月には「高等教育の修学支援新制度」が始まり、専門学校に対しても情報公開と教育水準の向上が強く求められる状況となった。これを受け、本校においてはPDCAサイクルの機能を踏まえた教育実践を通して、教職員の資質・能力の向上とともに、企業や関係部署との連携を強化し、本校の特色を生かす教育の一層の充実・発展に努めている。基本的な流れとしては校長の定める教育活動方針及び学科で作成する学科ガイドブック(Plan)を基に、教育活動を実施(Do)、年度末に自己点検(Check)を行い、次年度の教育活動方針に反映(Action)させるという構成となる。このうち最も重要な自己点検(Check)の中心を担っているのが、ここにまとめた自己評価である。

III 評価項目の達成及び取組状況

表の数字の、左欄は自己評価の平均値、右欄は肯定的人数（「4：適切」または「3：ほぼ適切」と答えた人数）の割合（%）を示す。また、（ ）内の数字は昨年度の値を示す。なお、数字左の記号で、○は平均値が0.2以上アップかつ肯定的割合が10ポイント以上アップ。△は平均値のみ0.2以上アップ。●は平均値が0.2以上ダウンかつ肯定的割合が10ポイント以上ダウン。▲は平均値のみ0.2以上ダウン。割合右の矢印で、↑は2年以上連続アップ、↓は2年以上連続ダウンを示す。

IV 文科省ガイドラインに準じた評価項目の達成及び取組状況

総括

数年間にわたるコロナ禍は当校の教育活動にも大きな影響を与え、科技専教育の基本としている6S管理、少人数の実習、企業と連携したインターンシップ、教職員研修などを十分に実施できる状況ではなかった。また学校運営においても、海外との往来が制限されたため留学生数が激減したことが経営的にも痛手となり、設備投資等を十分に行うことができなかった。このため教職員にアンケート調査を行う形で実施されている自己評価も、低い数値となっていた。

令和5年5月に行われた感染法上の区分変更に伴い社会情勢は落ち着きを見せ、学校活動もほぼ正常化し、工業専門課程に入学する留学生数もコロナ以前まで回復した。このことが科技専全体の活性化をもたらしており、令和5年度学校評価は昨年度に比べれば著しく改善している。ただ、留学生数の増加は、教員の負担を増やす要因となり、特に日本語力が十分でない留学生の学習指導には学校を挙げて取り組む必要がある。また、日本人においてもコミュニケーションが苦手など、特別な配慮が必要な学生が増加している。

これらの点を考慮し、次年度の教育活動方針に反映したい。また、教職員の世代交代が円滑に進んでいないことが継続した問題となっている。安心して教育を行うための教育環境の整備、設備の更新とともに、岡山科学技術学園に人材の採用強化を強く求めたい。

1 教育理念

(1) 評価項目

評 価 項 目		4：適切 2：やや不適切	3：ほぼ適切 1：不適切
1	学校の理念・目的・育成人材像は適切に定められているか	△3.4 (3.1)	90.4% (88.5)
2	学校の特色はうまく（適切に）表現できているか	△3.1 (2.8)	82.7% (75.0)
3	学校・学科の将来構想（3～5年を見据えた）を抱いているか	○2.7 (2.4)	59.6% (46.2)

(2) 現状

1. 教育理念、目的、育成人材像については、教育活動方針に定め、全教職員達成に向け取り組んでいる。
2. 本校の教育目標は、工業系の総合専門学校として社会に貢献できる、心豊かで逞しい技術者の育成である。専門教育の充実、資格取得の推進、進路指導の充実、学生指導の充実を教育活動の柱とし、社会の変化に柔軟に対応できる、即戦力となる技術者の育成に努めている。
3. 職場懇談会等の理事長講話を通して全教職員に将来構想を周知している、また学科においては、学科所属の全教員の意思疎通を図り、職業実践専門課程認定学科として、3～5年後を見通した学科像を策定している。

(3) いただいた意見（抜粋）

（特になし）

(4) 考察

教育理念については一定の理解が進んできたと考えている。教育活動方針も具体的な目標を掲げて実施したい。

2 学校経営

(1) 評価項目

評 価 項 目		4：適切 2：やや不適切	3：ほぼ適切 1：不適切
1	目的に沿った運営方針が策定されているか	△2.9 (2.6)	73.1% (66.7)
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	○2.8 (2.6)	76.9% (60.8)
3	運営組織や意志決定機能は明確になっているか	○2.7 (2.5)	63.5% (52.0)
4	人事・給与に関する規定等は整備されているか	2.9 (2.9)	78.8% (73.1)
5	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	3.3 (3.2)	98.1% (94.2) ↑
6	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	2.9 (2.9)	78.8% (76.5) ↑

(2) 現状

1. 本校教育を取り巻く諸情勢を踏まえて経営方針等を策定している。年度当初の教職員全体会議において非常勤を含む全教職員に周知し、また職場懇談会等で適宜確認をしている。
2. 経営方針に基づき事業計画を策定している。
3. 組織図及び職務分掌に基づき、階層的に権限・義務・責任を設け、意志決定機能の明確化に

努めている。

4. 人事・給与については、就業規則並びに賃金規程に従い適正に運用している。

5. 教育活動に関する情報は、教育活動方針、学校概要、教育活動方針、シラバス、進級・卒業要件、自己点検・自己評価、学校関係者評価等の情報をホームページ上で公表するとともに、学校案内やカギセンニュースを通して広く公表している。

6. 校内の全業務を管理するシステムを導入しており、今後も関係部署との情報交換を密にし、運用・利用方法の拡大・改善に向けた検討を進めていく。

(3) いただいた意見（抜粋）

- ・情報システム化による業務の効率化が図られているが、十分には活用できていない。(ほか1件)
- ・現在はいろいろなシステムが乱立している。一本化できればより効率化が図れると思う。

(4) 考察

学校経営については、社会の情勢や関係部署の総括を踏まえて運営方針を策定することを目指している。今後とも機会をとらえて情報共有に努めたい。

情報システム化に関しては、今後とも継続して改善に努めたい。

3 教育活動

(1) 評価項目

評 価 項 目		4：適切 2：やや不適切	3：ほぼ適切 1：不適切
1	教育理念等に沿った教育課程を編成しているか	3.2 (3.1)	92.0% (86.5)
2	学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3.1 (3.2)	85.7% (92.3)
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3.1 (3.2)	86.0% (90.4)
4	授業評価の実施・評価体制はあるか	3.1 (3.1)	82.0% (84.6)
5	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	3.2 (3.1)	80.9% (82.7)
6	資格取得に関する指導体制、カリキュラムの中で体系的な位置づけはあるか	3.2 (3.1)	89.4% (84.6) ↑
7	指導力のある教員の確保に努めているか	○2.7 (2.3)	57.1% (42.3)
8	先端的な知識・技術・技能等の教員研修や指導力など資質能力向上の取組が行われているか	○3.0 (2.6)	77.6% (55.8)
9	教職員の能力開発のための研修が行われているか	○2.9 (2.6)	72.0% (57.7) ↑

(2) 現状

1. 教育理念に基づいた教育活動方針、学科教育方針、また教育課程編成委員会での提言も踏まえ、豊かな人間性と実践的な知識・技術が習得できる教育課程を編成している。

2. 学科ガイドブックでは育成する学生像について明確にしており、また各科目のシラバスにおいては授業時間数や到達レベルを明示している。併せて社会のニーズに即した教育活動を推進している。

3. カリキュラムは、学科教育方針に基づき、実習を重視しつつ講義や実習が系統的・体系的に学べるよう編成されている。

4. 教育の質の向上の観点から、教員評価の一環として学生による授業アンケートを年2回実施し、管理職による授業評価と合わせ総合的に評価している。

5. 明確に定義され、HP上に公表している。
6. 学科教育方針に基づき、年間を通して系統的、計画的に実施している。
7. 教職員の確保については、教職員としての資質・能力、指導力、豊かな人間性を備えた人材の確保に努力している。
8. 企業、関係団体による技術研修会や講演会を実施し、技術・技能や指導力の向上に努めている。
9. 外部講師を招聘した教員研修、ネットによる遠隔研修、公開授業等により、教職員の資質・能力の向上に努めている。

(3) いただいた意見（抜粋）

- ・各学科のカリキュラム、授業内容の精査を今一度お願いしたい。
- ・学生アンケートの提出先は学科でないところにした方がよい。
- ・外部講師を招いた研修など、客観的な立場からの教員研修をすることで教員全体の質の向上につながると思う。

(4) 考察

新型コロナウイルス感染症の収束に伴い、研修の実施が増えつつある。今後は一層の充実を図りたい。また、技術者不足の影響もあり教員採用に関しては難しい状況が続いているが、今後とも継続して優秀な人材の確保に努めたい。

4 学修成果

(1) 評価項目

評 価 項 目		4：適切 2：やや不適切	3：ほぼ適切 1：不適切
1	就職率の向上に努めているか	△3.5 (3.2)	98.1% (90.4)
2	資格取得率の向上に努めているか	3.3 (3.2)	98.1% (88.5) ↑
3	退学率の低減に努めているか	○3.1 (2.8)	88.5% (76.9)
4	卒業生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	○2.9 (2.5)	66.7% (50.0)

(2) 現状

1. 企業訪問や説明会、進路指導連絡協議会等を活用し、進路指導課と学科主任・担任が連携して学生一人ひとりの適性を生かした就職支援に努め、早期決定と内定率の向上を目指した指導に取り組んでいる。
2. 学科ごとに目指す資格を掲げ、入学時から計画的な指導を行っている。
3. 学生の日頃の様子を観察するとともに、家庭との連携を密にした指導により、退学者の低減に努めている。
4. 学生の就職指導、卒業生の支援に役立てるため、就職先の企業に対し、定期的に卒業生の状況調査を実施している。また、高校の関係者からの卒業生の情報収集にも取り組んでいる。なお、企業の方等からの意見や課題等については、各学科へフィードバックし、指導内容・指導方法の改善に努めている。

(3) いただいた意見（抜粋）

- ・各学科とも基本的に高い資格取得率となっているが、さらに取得した方がよいと思われる資格についての研究を進めたい。

(4) 考察

近年、対応の難しい学生が増えており、特に留学生は母国の家族への連絡が難しいこともあり、

指導に限界を感じている。また、工業専門課程の卒業生については半年後に現状確認を、就職先の企業に対しては5年間の追跡調査を行っている。今後は学科と進路指導課の情報共有を一層進めたい。ただし、他校に進学した日本語学科卒業生の、その後の進路状況は情報収集の方法がないため、把握できていない。

5 学生支援

(1) 評価項目

評価項目		4：適切 2：やや不適切	3：ほぼ適切 1：不適切
1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3.2 (3.1)	86.3% (84.6) ↑
2	学生相談に関する体制は整備されているか	2.8 (2.7)	67.3% (69.2)
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	○3.1 (2.8)	82.4% (69.2)
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	△2.8 (2.6)	67.3% (61.5)
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	○2.8 (2.5)	68.6% (49.0)
6	家族と適切に連携しているか	2.8 (2.8)	75.0% (69.2)
7	卒業生への支援体制はあるか	2.5 (2.4)	51.9% (48.1)

(2) 現状

1. 進路指導課を中心に進路指導連絡協議会、進路指導の日、企業説明会等を企画し、組織的、計画的な就職支援体制が確立している。また、留学生の進路指導についても、進路ガイダンスの充実に努めている。
2. 担任を中心に、日々の教育活動や SHR 等を通して問題を抱える学生のシグナルをいち早くキャッチし、早期に対応できる体制を整えている。
3. 特待生制度による奨学金の給付や授業料等の分納について個別に相談に応じるなど支援を行っている。また、進学、卒業を支援する新たな奨学金規定を設け支援体制の充実に努めている。令和2年度より実施されている高等教育の無償化については、支援措置対象校となっている。
4. 学生課に健康管理を担う厚生係を設け、学生の健康診断等の職務にあたっている。また、専門機関との相談体制は徐々に整ってきているが、専門医や専門機関と連携してサポートする体制については構築できていない。
5. 例年、専門学校交流スポーツ大会などのイベント参加、ボランティア活動への参加には、活動費の予算措置を講じている。
6. 電話連絡や家庭訪問等、家族の方と連携したきめ細かい指導を行っている。また、学生支援会（旧保護者会）が組織されており、役員会での意見交換をはじめ、学校行事への協力や教育備品の寄贈等、学校と連携して教育環境の整備に取り組んでいただいている。ただし留学生の家族の方との連携が十分には出来ていない。
7. 創立30周年を機に、同窓会との連携が進んでいる。今後とも卒業生相互の絆を深めるとともに、動向把握に努めてゆきたい。

(3) いただいた意見（抜粋）

- ・ご家族との面談についてはオンライン等の手法を積極的に取り入れることで、より効率化が図れ、機動的に行えるのではないかと。

(4) 考察

留学生の指導に対しては改善の余地が多い。各学科と国際課および進路指導課の連携を進め、サポート体制の一層の充実を目指したい。

6 教育環境

(1) 評価項目

評 価 項 目		4 : 適切 2 : やや不適切	3 : ほぼ適切 1 : 不適切
1	施設・設備は、教育上の必要性に充分対応できるよう整備されているか	○2.4 (2.1)	42.3% (26.9)
2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	○2.8 (2.5)	61.5% (48.1)
3	防災に対する体制は整備されているか	2.8 (2.7)	74.0% (61.5)

(2) 現状

1. 施設・設備は、専門教育の推進に対応できるよう、可能な限り整備に努めている。
2. 工業専門課程の学科に対してはインターンシップを奨励しており、また企業での先端技術習得に向けた研修やイベント等へも積極的に参加している。なお、海外研修は今年度も未実施である。
3. 安全点検や避難訓練、救命法講習会を実施し、教職員の安全意識の向上、迅速な危機対応能力の向上に努めている。今後、さらに危機管理マニュアルの内容を充実させ、全教職員への周知を徹底し、緊急時の迅速で適切な対応に努めたい。

(3) いただいた意見（抜粋）

- ・防災に関しては、緊急時に全員が適切に対応できるよう全教職員への周知徹底が必要であると思う。
- ・設備に関しては学生支援会などの協力も得ながら徐々に充実している。より学生の要望に沿ったものを整備していきたい。

(4) 考察

実習設備等の充実については、優先順位を設け設備の更新や新設を進め、現場に即した学習内容の充実を進めたい。また、年2回のアンケート調査による学生の要望等についても丁寧に回答し、学習意欲の向上に繋げたい。これまで要望の多かったトイレの洋式化改修についても順次進めてゆく計画である。

防災に関しては危機管理マニュアルの内容を充実させ、適切な防災対策・緊急対応に努めたい。

7 学生の受け入れ募集

(1) 評価項目

評 価 項 目		4 : 適切 2 : やや不適切	3 : ほぼ適切 1 : 不適切
1	学生募集活動は、適正に行われているか	△2.6 (2.4)	55.8% (51.9)
2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	△2.8 (2.6)	63.5% (59.6)
3	学納金は妥当なものになっているか	△3.2 (3.0)	86.5% (90.4)

(2) 現状

1. 広報企画課を中心に、各学科と連携して計画的な高校訪問やガイダンスへの参加に努めている。また、日本語学科入学希望の留学生については意欲、学力、経済的な面等を総合的に判断し

た適正な受け入れに努めている。

2. 教育成果は、ガイダンスや高校訪問等において正確に伝えるとともに、ホームページ上からも定期的に発信している。
3. 他の専門学校と同等であり、適正な金額である。

(3) いただいた意見（抜粋）

- ・ 広報企画課と各学科との、さらに深い連携が必要だと思う。

(4) 考察

広報企画課と学科で連携した計画的・戦略的な広報活動を行い、オープンキャンパスの内容を充実して学生確保に努めた結果、一部学科ではあるが定員を確保できた。また、留学生については、カギセンの特徴を生かして入学時から目的意識、日本語能力、経済状況などを的確に把握し、工業専門課程への内部進学を経て就職するまでを見据えた指導・支援・対応をより充実させたい。

8 財務

(1) 評価項目

評価項目		4：適切 2：やや不適切	3：ほぼ適切 1：不適切
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	○2.5 (2.3)	45.8% (35.4)
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	2.7 (2.6)	68.8% (63.8) ↑
3	財務について会計監査が適性に行われているか	3.2 (3.1)	87.5% (91.5)
4	財務情報公開の体制整備はできているか	3.1 (3.0)	85.7% (91.5)

(2) 現状

1. 学校の中長期的経営基盤の安定化に努めているが、コロナ禍により入学者数の見通しが立ちにくい状況にあっている。特に日本人学生の安定確保に努めたい。
2. 事業計画に基づき予算・収支計画を策定し、適正に執行されている。
3. 毎年理事会において監査が行われ、適正な運用がなされている。
4. 財務状況は、理事会の監査を経た後、HP上に公表している。

(3) いただいた意見（抜粋）

(特になし)

(4) 考察

今後も学生の確保に努め、財務の健全化に寄与したい。

9 法令等の遵守

(1) 評価項目

評価項目		4：適切 2：やや不適切	3：ほぼ適切 1：不適切
1	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.1 (3.1)	81.6% (82.0) ↓
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3.3 (3.1)	88.2% (88.5) ↓

3	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3.1 (3.0)	78.4% (86.5)
4	自己点検・自己評価結果を公開しているか	3.5 (3.4)	98.0% (100.0)

(2) 現状

1. 法令及び専修学校設置基準を遵守し、適正な学校運営がなされている。
2. 個人情報については、コンプライアンスに基づき厳重な管理がなされている。
3. 毎年度自己点検・自己評価を実施し、課題等を明らかにするとともに問題点の改善に取り組んでいる。
4. HP上に公開している。

(3) いただいた意見（抜粋）

（特になし）

(4) 考察

各部署での分析、総括を踏まえ、課題を共有し改善を目指すとともに、今後も法令遵守に努めたい。

10 社会貢献・地域貢献

(1) 評価項目

評 価 項 目		4：適切 2：やや不適切	3：ほぼ適切 1：不適切
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	○3.1 (2.8)	78.4% (67.3)
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	○2.9 (2.7)	76.0% (63.5) ↑
3	公開講座、教育訓練（公共職業訓練等）の受託等を積極的に実施しているか	○3.0 (2.7)	78.4% (61.5)

(2) 現状

1. 大学生へのペインティング指導や各種団体への貸校舎等による本校施設の活用を推進している。
2. 学生課の重点目標にボランティアの推進を掲げ、清掃ボランティア、災害ボランティアへの参加を促している。コロナ禍のためここ数年低調であったが、活動の場が戻ってきてつつある。
3. 高校等への出前授業、子供向けイベントや各種イベントも積極的に取り組んでいる。また、専門実践教育訓練の施設として4学科が認定を受けており、社会人の学びの場として今後さらに教育の充実を図り、社会のニーズに応えていきたい。

(3) いただいた意見（抜粋）

（特になし）

(4) 考察

地域貢献活動の機会は増えつつあるので、地域・社会に求められる学校、貢献する学校となるようボランティア活動への参加を積極的に促すとともに、学生の自主的な活動も支援したい。あわせて、出前授業や地域の活性化に向けた活動への協力等を通して地域への貢献とともに、学生の成長、豊かな心の育成を図りたい。

また、中長期的なキャリア形成のための能力の習得を目指す社会人が、学び直しのできる教育機関としても貢献していきたい。

教育活動方針に従った評価項目の達成及び取組状況

1 令和5年度教育活動方針の概要

(1) キーワード「レベルアップ」

長く学校教育に影響を与えたコロナ禍も、令和5年度に感染症法上の分類が変更されることに伴い、ようやく収束を見込める状況となった。新年度の教育活動方針を策定するにあたり、例年であれば7分野40項目の評価項目ごとに改善点を定め、その中から重点項目を選んでいたが、今年度に限りコロナ禍で評価が低下している3分野を集中的、重点的に改善したい。

一つ目が「6S管理の徹底」である。令和5年度においては全教職員で教育環境の整備に徹底して臨みたい。併せて、躰教育の一環として挨拶などの社会人マナーの徹底も図りたい。

二つ目が「留学生の指導・支援の充実」である。すべてがコロナ禍に起因するわけではないが、日本語でのコミュニケーションに問題がある留学生が増えている。日本語学科を設けている学校の特徴を生かし、学内連携による日本語教育の充実を行いたい。

三つ目が「学生確保」である。留学生受験者の大幅減少はコロナ禍に起因する部分が多いが、日本人受験者も減少している。人事、設備を含め、より魅力的な学校とすることを最終目標に、短期的にはオープンキャンパスの内容を充実し、学生確保に努めたい。

以上3点を最重点課題とし、コロナ以前のレベルを超えることを目標に改善を目指す。したがってキーワードは、「レベルアップ」としたい。

(2) 重点項目

1. 6S管理の徹底

教室・実習室の清掃強化に努める。

挨拶等の社会人マナー（喫煙を含む）などの躰教育に努める。

2. 留学生の指導・支援の充実

日本語能力の向上とともに、教育方法の改善を図る。

3. 学生確保

オープンキャンパスの充実を図る。

2 評価項目の達成状況

1. 6S管理の徹底

評価項目		4：よい 2：やや不十分	3：ほぼよい 1：不十分
1	職員室（事務室も含む）の整理、整頓はなされている	△3.1 (2.9)	86.3% (82.7)
2	HR教室の整理、整頓、清掃はなされている	△3.0 (2.8)	78.4% (71.2)
3	実習工場（高柳）、実習室（昭和町）の整理、整頓、清掃はなされている	△3.1 (2.9)	80.0% (78.8)
4	授業（実習・座学）は学生が意欲を持って取り組む、わかりやすいものを目指して日々工夫をしている	△3.2 (2.9)	91.7% (82.4)
5	授業、校外研修等において、常に細心の注意を払い、事故のない指導を心掛けている	△3.4 (3.2)	97.9% (94.1) ↑
6	授業始業時、終了時のあいさつや授業態度の指導など、マナー、躰指導に継続的に取り組んでいる	△3.1 (2.9)	86.0% (78.8)
7	安全を意識した指導を徹底している	△3.5 (3.2)	100.0% (94.2)

ご意見、お気づきの点（抜粋）

・基本的に片付いているが、たまに雑然としている状況も見受けられるので、そうした際は迅速に整理整頓したい。

2. 専門教育の充実

評 価 項 目		4 : よい 2 : やや不十分	3 : ほぼよい 1 : 不十分
1	教える内容を精査し、基礎・基本の定着を図っている	○3.3 (3.0)	97.8% (86.3)
2	個々の能力を伸ばすため、学生が主体的に学ぶ授業の工夫に努めている	○3.3 (2.9)	93.5% (78.4)
3	認定学科として、職業教育の充実に向けた取組が、計画通り進んでいる	○3.2 (2.8)	89.1% (76.0)
4	身に付けさせる能力について、学科教員との話し合いに努めている	○3.1 (2.7)	87.0% (66.7)
5	企業と連携した実習は効果的に行っている	△3.4 (3.0)	93.6% (86.0) ↑
6	企業と連携したインターンシップは効果的に実施できている	△3.2 (2.9)	85.1% (78.4)
7	目指す資格を明確に示している	△3.7 (3.4)	100.0% (96.1)
8	学科を挙げた組織的で徹底した指導を行っている	○3.3 (3.0)	93.8% (74.5)

ご意見、お気づきの点（抜粋）

- ・資格取得は合格率向上を目指して各学科組織的に指導ができていると思う。
- ・外部講師が受け持つ授業の講師については、本校卒業生を招くことを増やしてはどうか。学生により親近感を持ってもらえる。

3. 学生指導の充実（学科教員間の意思の疎通、家族や関係機関との連携）

評 価 項 目		4 : よい 2 : やや不十分	3 : ほぼよい 1 : 不十分
1	あいさつの徹底（思いやりの心を育む）に努めている	△3.3 (3.1)	88.0% (84.3)
2	授業の工夫・改善に努め、学ぶ意欲の高揚を図っている	○3.1 (2.9)	91.7% (80.0)
3	真面目に授業を受ける指導を行っている	○3.1 (2.8)	89.6% (78.4)
4	個人面談や声掛けを大切にし、学生把握に努めている	△3.2 (3.0)	87.5% (80.8)
5	電話連絡や家庭訪問等で家族との連携を密にし、きめ細かい指導を行っている（進級率・卒業率 95%）	○3.0 (2.7)	83.3% (64.7)
6	禁煙指導や感染症の予防等の健康管理、気になる学生の支援に努めている	○3.0 (2.8)	80.0% (69.2)

ご意見、お気づきの点（抜粋）

- ・授業面、生活面とも学生一人ひとりに親身になって指導できていると思う。
- ・学校の活性化につながるので、あいさつを含め学生に声かけする場面をどんどん増やしたい。

4. 進路指導の充実（進路指導課と学科との連携）

評 価 項 目		4 : よい 2 : やや不十分	3 : ほぼよい 1 : 不十分
1	就職指導の充実に向け、進路指導課と学科の連携ができている（内定率 100%）	3.2 (3.1)	83.7% (86.0)
2	企業訪問を積極的に行っている	2.5 (2.6)	47.9% (49.0)

3	一般教養の充実に努めている	△3.0 (2.8)	84.8% (78.4) ↑
4	ビジネス教養の充実に努めている	○3.1 (2.8)	88.9% (76.5) ↑
5	進路指導課と学科の連携を強化し、就職支援と卒業後の離職等も含めた動向確認に努めている	3.0 (2.9)	77.1% (80.4)
6	就職先企業や企業後援会、同窓会との連携を図り、卒業生の職場定着に努めている	2.8 (2.8)	64.6% (68.6)

ご意見、お気づきの点 (抜粋)

- ・進路指導課と学科の連携がしっかり取れていると思う。
- ・社会人のマナーに関する講演会を定期的に行っているのは良い。就職後に役立つと思う

5. 留学生の指導・支援の充実 (在学生の把握の徹底と卒業生の把握)

評価項目		4 : よい 2 : やや不十分	3 : ほぼよい 1 : 不十分
1	日本語能力向上に向けた組織的、計画的な指導に努めている	△2.7 (2.4)	58.7% (51.9)
2	進学指導の充実のため、ガイダンスや専門学科の授業見学が、組織的に行われている	○2.8 (2.5)	75.6% (55.8)
3	専門科目をわかりやすくするための指導方法の工夫がなされている	○3.0 (2.6)	81.4% (64.7)
4	就職に向けたガイダンスやインターンシップの実施が、組織的に行われている	○3.1 (2.8)	87.0% (70.0)
5	生活実態 (出欠、アルバイト、宿舎等) の把握に努めている	△3.2 (2.9)	91.5% (82.4)
6	文化や言語の理解を深めるための研修が行われている	○2.4 (2.1)	44.7% (28.0)

ご意見、お気づきの点 (抜粋)

- ・進学指導や就活指導が組織的に行われていると思う。
- ・留学生は母国を出て日本で頑張っている。支援体制をさらに整えたい。

6. 学生確保

評価項目		4 : よい 2 : やや不十分	3 : ほぼよい 1 : 不十分
1	多角的な情報分析、計画的な高校訪問など、学生確保に努めている	○2.7 (2.3)	59.2% (46.2)
2	広報企画課と学科との情報交換を密にし、学科情報の効果的な発信に努めている	○2.6 (2.3)	57.1% (38.5)
3	オープンキャンパスの充実に努め、歩留まり率向上 (65%以上) を目指している	○3.1 (2.6)	81.6% (63.5)

ご意見、お気づきの点 (抜粋)

- ・少しずつ広報企画課と学科との連携が取れてきてはいるものの、もっと連携する必要がある。

7. 教職員の資質・能力の向上

評価項目		4 : よい 2 : やや不十分	3 : ほぼよい 1 : 不十分
1	3回の面談 (当初、中間、最終) 等で意見交換ができています	3.1 (3.0)	82.4% (84.9)
2	校内教員研修や企業研修会等に積極的に参加している	○3.1 (2.8)	80.0% (66.7)

3	公開授業、授業見学が計画的に行われ、授業改善に努めている	○3.1 (2.8)	90.0% (71.2)
4	資質、指導力向上のため資格取得に挑戦している	○3.0 (2.7)	88.0% (71.2) ↑

ご意見、お気づきの点（抜粋）

- ・授業見学は計画的なものに加え、抜き打ちでも行ってほしい。
- ・年に3回の意見交換の場があり、意見をしっかり聞いてもらえるのはとても良い。
- ・教員資質の向上のためには、教職員全体がもっとスキルアップしていく必要がある。

令和6年度 教育活動方針の骨子

<キーワード「進化」>

教育活動方針では7分野の評価項目ごとに重点項目を選んでしたが、令和5年度はコロナ禍で評価が低下した主要3分野を集中的、重点的に改善することを目標に掲げたところ、ほとんどすべての項目で大きく改善し、科技専が大きく変わる分岐点に来ていることを予感している。しかし、主要3分野には問題点が残っているのも明らかになってきたため、令和6年度も同じ3分野に力を注いだ教育活動を目指したい。

一点目が科技専教育の根底をなす「1. 6S管理の徹底」である。全般に教職員の自己評価は高いが、校長としては、なお一層の社会人マナーに関する指導が必要だと感じている。

二点目が「5. 留学生の指導・支援の充実」である。この中でも、日本語能力向上に向けた指導と、研修の項目の評価が低い。日本語学科を設けている学校の特徴を生かし、専門課程を含めた学内連携・長期計画による日本語教育の充実と教員研修に力を入れたい。

三点目が「6. 学生確保」であるが、こちらも全体の中では評価が低い。私立学校にとって学生確保は最重要課題であることを念頭に、科技専の魅力を高め、SNSなどの情報発信とOCの内容充実を通じて、受験者増に繋げるべく努力したい。

以上3点が大きく改善すれば、科技専教育が遺伝子レベルで変化することにつながると考えているので、キーワードは「進化」としたい。

<重点項目>

6S管理の徹底

社会人マナーの指導

留学生の指導・支援の充実

留学生の日本語能力向上と全教員の指導力向上

学生確保

専門学校としての魅力を発信

以上